

3. 主要事業

地域内における 共助交通の導入

地域住民が参画する移手段
確保策の導入を検討します。

●実施主体

新たに立ち上げる中心的組織
(NPO等)

●事業実施区域

町内各地区～智頭町中心部間

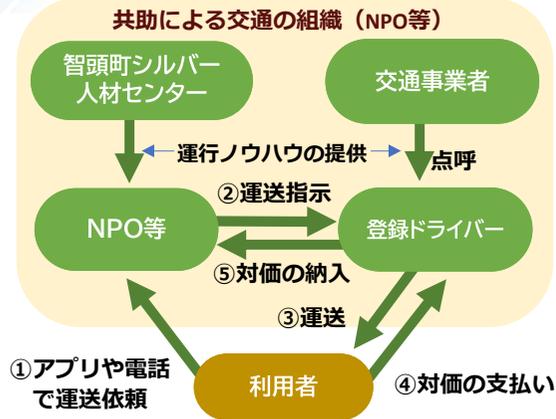
●車両

10人乗り想定
(町貸与または登録ドライバーの自家用車)

●スケジュール

R2年度：各地区や関係団体等との調整が整った地区から社会実験を実施
R3年度：中心的組織（NPO等）の立ち上げ
R4年度：中心的組織による本格運用開始

▼実施体制案



告知放送端末を活用した公共交通検索・予約システムの導入

町内の各戸に設置している告知放送端末が更新時期をむかえるため、公共交通検索・予約システム等各種機能を備えた端末へ更新を行います。

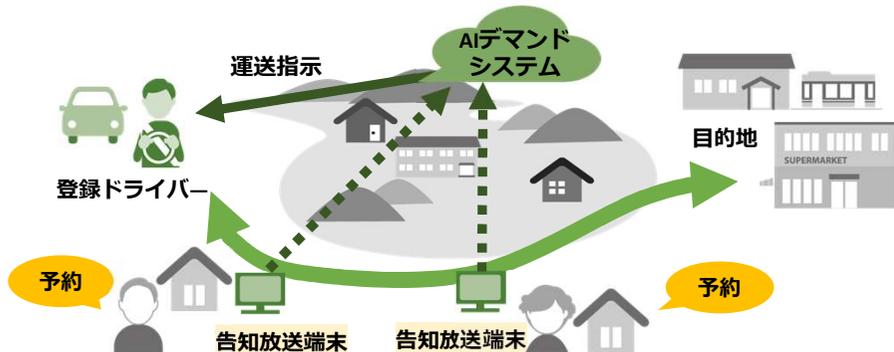
●実施主体

町、民間事業者

●スケジュール

R2～3年度：AIデマンドシステムの構築、実証実験により告知放送端末との互換性の検証
R4年度：観光二次交通への対応

▼告知放送端末×AIデマンドシステムイメージ図



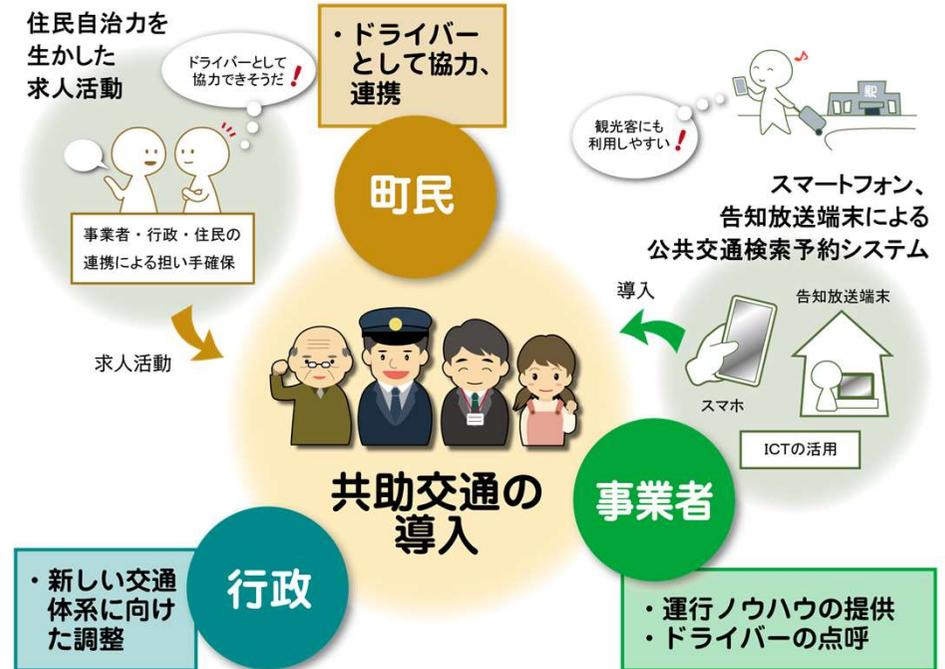
智頭町地域公共交通計画

概要版

1. 目指す姿

本町では、第7次総合計画の将来像として、「一人ひとりの人生に寄り添えるまちへ」を掲げており、「すべての人に寄り添える交通体系」実現策として、『**コミュニティバスからドアツードア型のデマンド運行へのシフト（共助交通の導入）**』を目指します。

共助交通の実現に向けた役割とイメージ

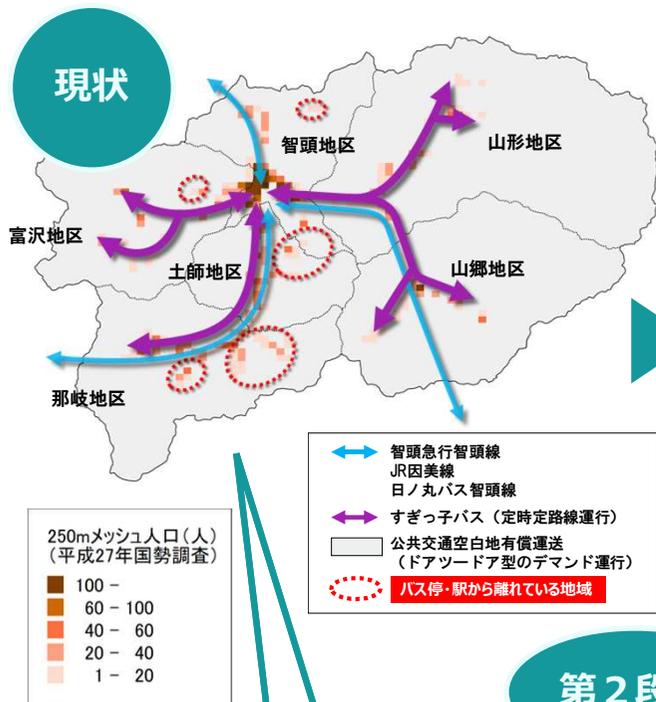


背景

- ◆ 少子高齢化等に伴い**すぎっ子バス利用者数が減少**しています。
- ◆ 利用したい時間帯に便がない、地域内をきめ細かに運行してほしい、といった**公共交通の利便性向上**が求められています。
- ◆ 一方、**バス・タクシー等の運転手不足**といったサービス供給側の事情によりサービス改善が実現できていない状況です。

2. 計画の基本方針・事業

公共交通ネットワークの将来像



第1段階

令和2~3年度

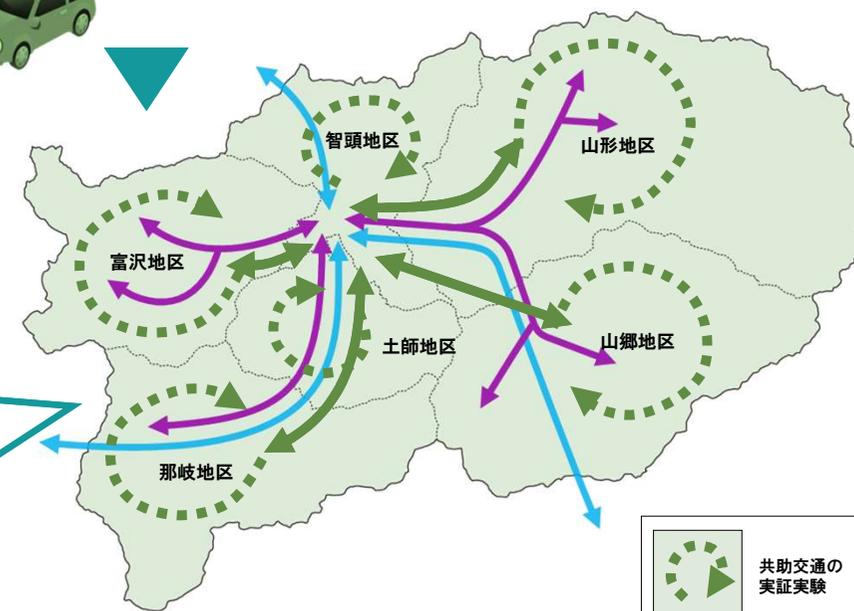
- ◆各地区や関係団体等との調整が整った地区から、**共助交通の実証実験**を行います。
- ◆スマートフォンおよび告知放送端末による**公共交通検索・予約システム**の導入を行います。
- ◆地区の人材を熟知する自治組織との協力体制を構築し、**住民自治力を生かした求人活動**を行っていきます。

一部地区で
実証実験※
※図で示す地域は
あくまでも例です

第2段階

令和4~6年度

- ◆全地区で新たな組織体制を構築し、かつ**観光二次交通に対応できる体制づくり**を目指します。
- ◆すぎっ子バスの運行本数を減らし、通学利用者の多い時間帯のみ運行し、日中は予約があった場合のみ運行することを段階的に検討していきます。



基本理念

すべての人に寄り添える
持続可能な交通体系の構築

基本方針1

住民にとって利用しやすい公共交通ネットワークの構築

基本方針2

公共交通ネットワークを将来的に確保・維持していくための仕組みづくり

基本方針3

公共交通の利用促進と新たな利用者の開拓